

城取博幸の
徳島のスーパーマーケット見聞録

NO155
2023年3月
城取フードサービス研究所
城取 博幸

「小島芸予要塞」としまなみ海道「村上海賊」

2023-03-13 16:59:53

愛媛県今治市の続き
今治市内から小島に向かう



波止浜棧橋



フェリー
乗ったのは2人だけ



近くの島々を回る船



しまなみ海道



小島に到着

奥に大砲のようなものが
無人島のように見えるが住民はいるようだ



本数が少ないため帰りの時刻表を確認しておいた方がいい
カフェも食堂も宿泊施設もない

＜波止浜～馬島航路運航時刻表＞

平成26年10月1日実施

馬島(発)	小島(発)	来島(発)	波止浜(着)	波止浜(発)	来島(発)	小島(発)	馬島(着)
				△07:05	△07:10	△07:15	
1							
2	△07:15	△07:20	△07:25	08:00	08:05	08:10	08:20
3	08:20	08:30	08:35	08:40	10:10	10:15	10:20
4	10:30	10:40	10:45	10:50	11:10	11:15	11:20
5	12:00	12:10	12:15	12:20	12:45	12:50	12:55
6		12:55	13:00	13:05	14:00	14:05	14:10
7	14:20	14:30	14:35	14:40	15:40	15:45	15:50
8	16:00	16:10	16:15	16:20	16:50	16:55	17:00
9		17:00	17:05	17:10	△17:30	△17:35	△17:40
10	※17:50	△18:00	△18:05	△18:10	△18:30	△18:35	※17:50
11		△18:40	—	△18:50			

△印は、12月31日～1月3日休航
※印は、12月～2月休航

小島観光案内 MAP



芸予要塞(げいよようさい 来島要塞)・小島砲台跡

小島は来島村上海賊の拠点であった

日清戦争後の明治30年、大日本帝国陸軍が着工した要塞で明治32年に完成

ロシアの「バルチック艦隊」の瀬戸内海侵入を想定して構築したもの

建設を指導したのはフランスに留学して築城工学を学んだ「上原勇作」

上原勇作氏は、俳優「上原謙(加山雄三の父)の祖父と言う噂もあるが、血縁関係は認められていない

加山雄三は「岩倉具視」の玄孫

これはNHKドラマ「坂の上の雲」で使われたレプリカ

誰かが砲筒に乗ったせいか窪んでいる



グーグルで検索すると水深が深いため大型船の航路になっている



当時の写真

手前が28cm榴弾砲



24cm砲



散歩コース



探照灯跡



上の部分に探照灯があった



探照灯(サーチライト)は夜間に海峡を往来する船舶を確認するための照明



こんな道を進み発電所跡へ



野生動物の足跡 猪か



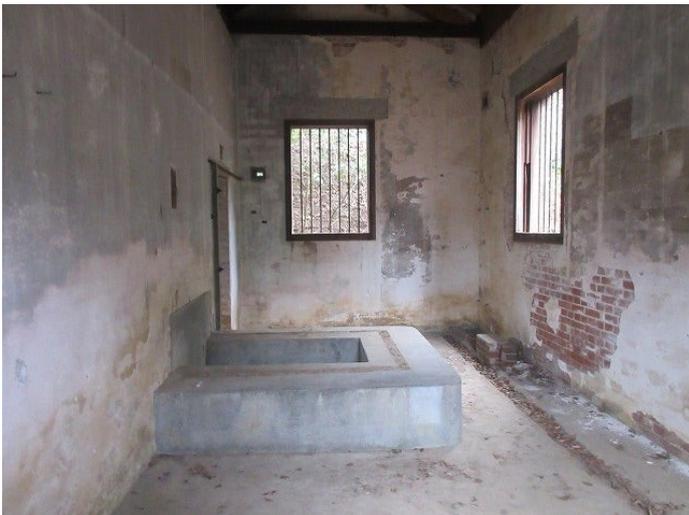
発電所跡



奥に煙突があることから石炭による発電所 100年以上前の建物



内部



近くの民家跡



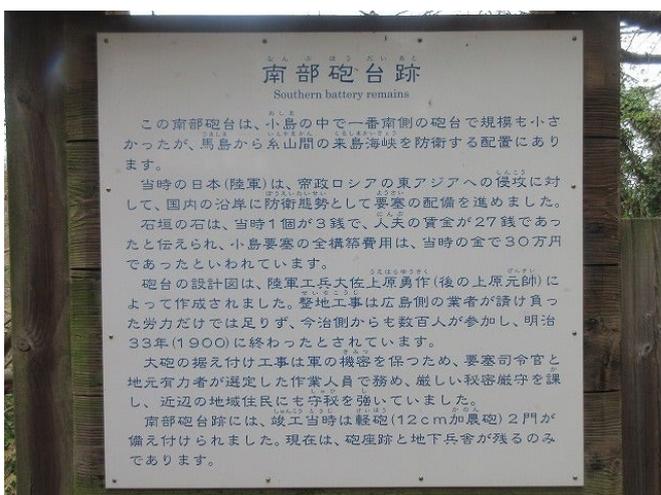
南部砲台跡 正面は兵舎



ここは24cm砲が2門設置された



砲台の据え付け工事は秘密裏に行われた



猪の足跡 この島にはかなりの猪が繁殖してるから注意 一人では危険



弾薬庫跡



レンガ造りの建物



レンガはイギリススタイルの積み方



内部 江戸時代もそうであったが、弾薬庫の屋根は木造でできている
弾薬に引火した際爆風を上へ逃し建物の被害を軽減するため



モッコとスコップで山を切り崩し窪地に弾薬庫をつくった



兵舎跡に向かおうとするが



猪の巣か何かでビビる



中部砲台跡



宿舎は地下であった



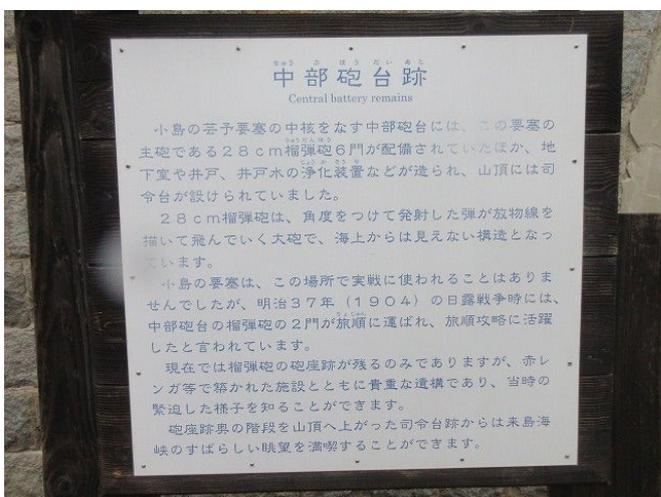
28cm榴弾砲の砲台 レイアウトは函館山の砲台とほぼ同じ



この穴を使い会話を行っていた



中部砲台跡



2門ずつ3カ所に設置されていた



長い階段を上ると



司令塔跡 ここで監視を行っていた



司令塔跡内部



この穴で砲台まで指令する 砲台は低いため敵艦が見えない



山頂からの景色



今は木が茂っている あまり見晴らしが良すぎると敵艦からの砲撃を受けてしまう



来島海峡と小島



この海峡は渦潮が発生する瀬戸内海随一の難所として知られている

1日に1000隻以上の船舶が航行する国際航路



波止場に戻り「しまなに街道」を通り「村上海賊資料館」へ



しまなみ海道



「村上海賊ミュージアム」に到着
愛媛県今治市宮窪町宮窪 1285(大島)



村上海賊のモニュメント



目目の島



村上景親像

戦国時代から江戸時代初期にかけての武将

小早川氏、毛利氏の家臣

父は野島村村上氏当主「村上武吉」

文禄、慶長の役で捕虜にした朝鮮貴族(両班)を側室とした



小型の高速船(復元品)



小早船(武吉丸)



館内



こういう表記は気持ちがいい 最近サミットストアなど写真撮影を禁止しない店も増えてきた



海域分布と瀬戸内海航路



当時の船



村上家族三家

村上海賊は 14 世紀中ごろから瀬戸内海で活躍した一族

上から「因島村上」「来島村上」「能島村上」

「来島村上氏」は来島城を本拠地にし、伊予国守護の「河野氏」の重臣として活躍した

大三島の「大山積神社」の神紋と同じだ

「因島村上氏」は周防国の「大内氏」に仕え、後の毛利氏の海の勢力となった

「能島村上氏」は独自の姿勢を貫いた



航海を保証した通航手形



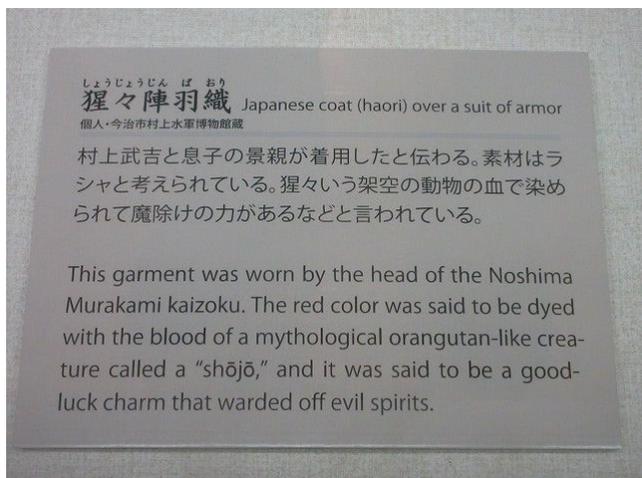
陣羽織



赤いじょうじょう陣羽織

村上武吉の息子の景親が着用したと伝わる

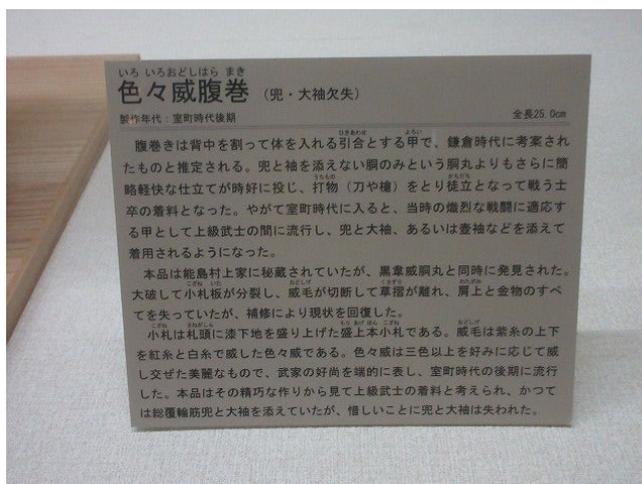
素材はラシャで角の動物の血で染められ魔除けの力があると言われている



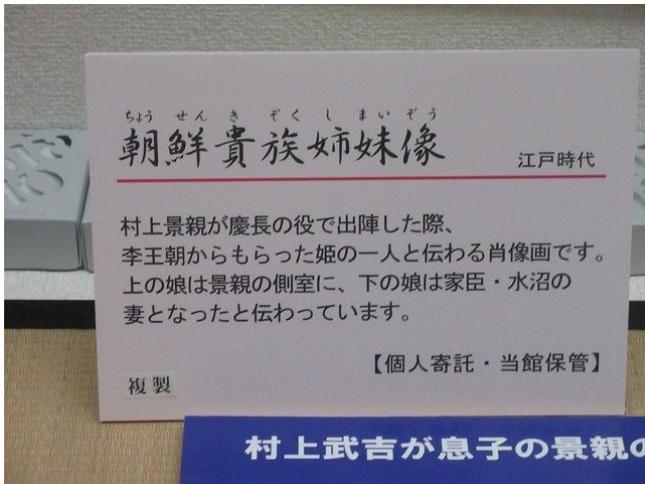
色々威腹巻



背中を割って体を入れる鎌倉時代に考案された腹巻



村上景親が「慶長の役(1598年)」で出陣した際 李王朝からもらった姫に一人と伝わる肖像画
「もらった」という表現が苦しい



ギヤマン酒器



ほうろく 砲丸投げのように敵の船に投げ入れる村上海賊の武器
火薬らしきものを使っていた

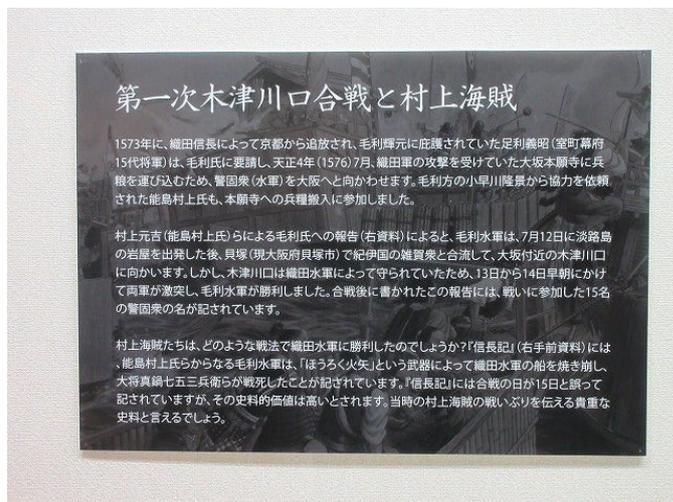


第一次木津川口合戦と村上海賊

1576年、毛利氏と織田氏との間に起こった海戦

戦闘は主に大阪湾木津川河口で行われた

毛利方水軍の使用する焙烙玉(ほうろくだま)・火矢の前に織田側の水軍は大打撃を受けた



村上海賊と厳島の戦い

1555年、毛利元就(もととなり)が、安芸の厳島神社に陣を張った「陶春賢(すえはるたか)」を急襲毛利氏がこの戦いに勝利できたのは能島(のしま)、来島(くるしま)、因島(いんのしま)の村上氏が毛利方についたからと言われている



28cm榴弾砲

小島には南部、中部、北部の3カ所砲台が築かれ中部砲台に28cm砲6門が設置

1904年「日露戦争」が勃発し、小島から2門が旅順に送られた

芸予要塞は1924年に廃止され実践に使われることはなかった

2009年NHKドラマ「坂の上の雲」に使われたレプリカが今も残る

大三島「大山祇(積 つみ)神社」

2023-03-15 16:59:56

「大山祇(つみ)神社」

愛媛県今治市大三島



御祭神は「大山積大神一座」で、天照大神の「兄神」に当てられる
神武天皇御東征に先駆け、祭神の子孫「小千命(おちのみこと)」が先駆者として四国に渡り大三島を神地として定めた
神武天皇御東征とは日向(宮崎県)から四国、和歌山熊野へ向かうこと
熊野から橿原(奈良県橿原 かしわら)まで先導したのが三本足の「八咫(やたがらす)」
神武天皇は橿原で初代天皇となる(BC660年)



乎知命(小千命 おちのみこと)が大三島に祖神大山積大神を祀った際に植樹
その時代は神武天皇御東征前と伝わる



手水舎



祓殿(はらいどの) 神社でお祓いを行う場所



神門



十六花卉と神紋

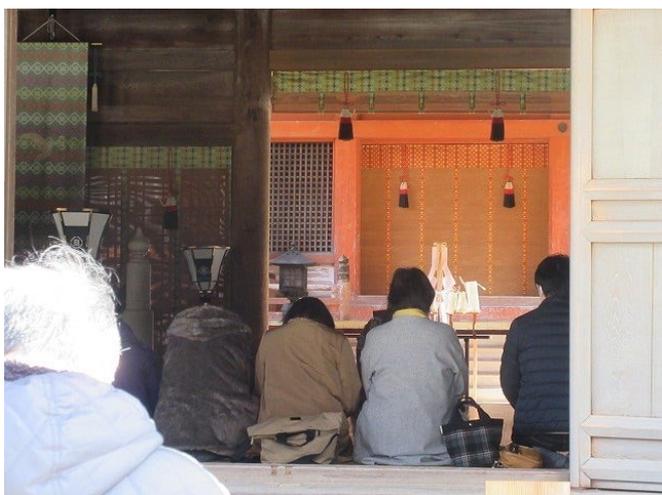


拝殿



神紋は「隅切折敷縮三文字(すみきりおしきちみさんもじ)」

折敷の四隅を切り落とした八角形 家庭ではお正月の鏡餅を載せる際に使われる



神符授与所



十七神社



ここにも神紋



この楠は



将

「河野通有」兜掛け楠 元寇の役で活躍した伊予水軍の将



宝きょう院塔



時宗の開祖「一遍上人」は河野通広の子として松山宝蔵寺に生まれ

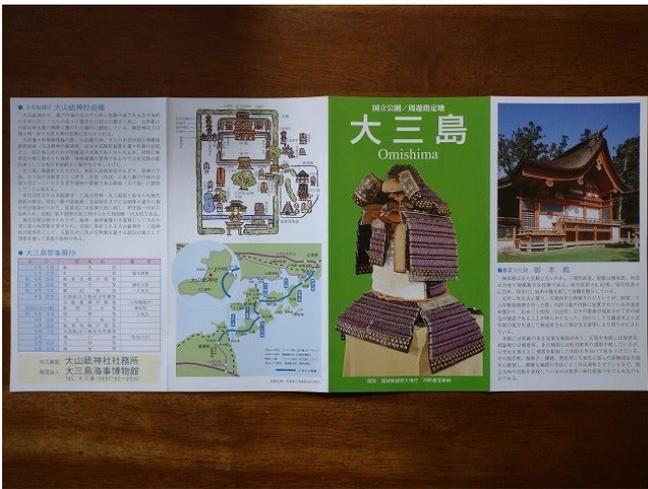
三島水軍「河野通信」の孫に当たり、一遍上人絵伝に知られる通り大三島宮の参拝の折に奉納



国宝殿と海事博物館



どちらも撮影禁止



現存の日本の甲冑の80%がここにありという



主な文化財

身近な所では「木曾義仲の甲冑」「巴御前の薙刀」も展示されていた
800年以上前のものだ

これは見る価値あり

文甲冑の8割がここに

天皇御東征前と云われる。

主な文化財

国宝 鸾獣葡萄鏡 齐明天皇御奉納	重文 螺鈿飾太刀 平重盛奉納
国宝 薄瀧威鎧 越智押領使好方奉納	重文 薙刀 武蔵坊弁慶奉納
国宝 赤糸威鎧大袖付 源義経奉納	重文 赤漆塗重鎗弓 鎮西八郎為朝奉納
国宝 紺糸威鎧兜大袖付 河野通信奉納	重文 革筋 和田小太郎義盛奉納
国宝 紫綾威鎧大袖付 源頼朝奉納	重文 三島神紋流旗 河野通信奉納
国宝 牡丹唐草文兵庫鎖太刀拵 護良親王奉納	重文 銅製水瓶 平重盛奉納
国宝 大太刀拵付 豊後友行 大森彦七奉納	重文 藍韋威鎧 河野通時奉納
国宝 大太刀 銘千手院長吉 後村上天皇御奉納	重文 萌黄綾威腰取鎧大袖付 河野通有奉納
重文 神号扁額 参議藤原佐理奉納	重文 浅葱系威褰取鎧大袖付
重文 黒紫韋威胴丸 大袖付 木曾義仲奉納	重文 祝彦三郎安親奉納
	重文 宝篋印塔 一遍上人奉納
	重文 紺糸裾素懸威胴丸
	大祝安用の女鶴姫着用

◎他に重要文化財指定の鎧、兜、刀剣をはじめ美術工芸品及び文書類等多数展示。

国宝 牡丹唐草文兵庫鎖太刀拵 護良親王奉納

白蛟着せの柄、板金を伏せた鞘とともに長覆輪を懸けた雄たな金剛造りの太刀で、帯執りに兵庫寮で

源頼朝の鎧の写真より義経の方が大きい

古代が今に甦る

Oyamazumi Shrine
List of Representative National Treasures

海渡る遙かなりし浪漫

Shōden Kokubōsan, Kōji Hōkōdōzōka

特別指定の海軍博物館

千両か



人気の食堂「大漁」 残念ながら休日であった 近くで店を探す



昼食はイサキの煮つけ定食



鮮度がいい



名物「神島まんじゅう」



2個購入しその場でいただく



先日テレビ「くらし解説」でおもしろい特集をやっていた

各都府県の縄文度調査(渡部、大橋「iScience」より)

ブルーの色が濃い地域は縄文度が高い地域

東北、関東、鳥取、島根、鹿児島は高い

長野県の色は微妙 諏訪大社があるからか

沖縄は飛びぬけて縄文度が高い 北海道はは明治以降の移民で特徴出す

茶色い部分は縄文度が低い地域

四国、和歌山、三重、奈良、滋賀、福井は縄文度が低い

すなわち渡来人が多い地域



縄文人由来の遺伝的変異と体質

身長は低め、太りやすい体質

不安定な狩猟採集生活に適応、飢餓に強い



渡来人の遺伝的体質

血中の好酸菌(免疫細胞)CRP が増えやすい

感染症から体を守る働き

農耕で人口密度が高く、感染症広がりにくい環境に適合



前にも使っている資料

縄文末期に渡来人が日本を訪れるようになった時期に人口が激減

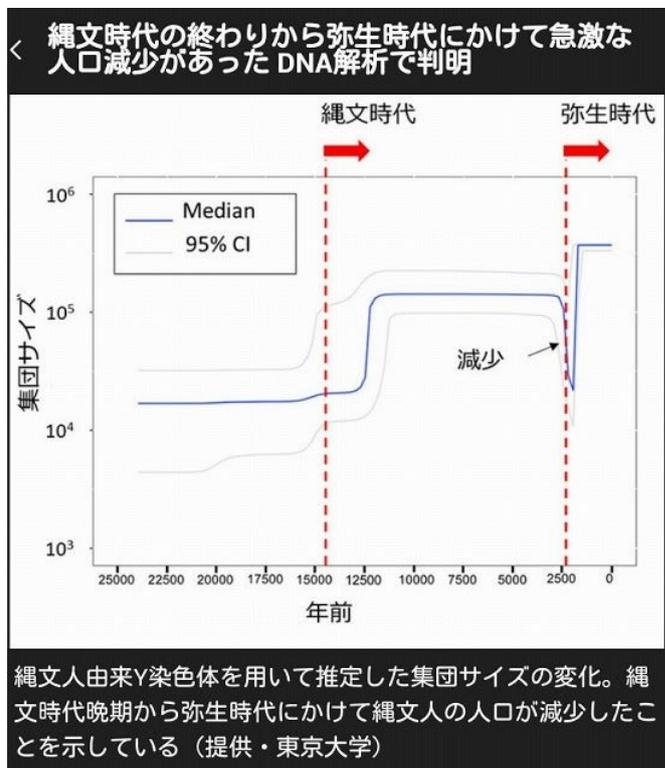
天候異変による飢餓も考えられるが、伝染病が原因であるとも考えられる

私は伝染病説

アメリカンインディアン、マヤ、アステカもヨーロッパからの伝染病、戦争の被害を受けている

「縄文人」vs「渡来人」との戦いによる人口減少か

争いがなく平和であった縄文人は戦いに慣れて渡来人と対等に戦えたのか



阿波、徳島の2人の女性が書いた本

縄文末期から弥生時代にかけて多くの地域から日本にやってきた

この本はイスラエル人が日本にやって来たという説

本はまだ全部読んでないが想像はつく

「魚谷佳代著」は品切れ



「香川宜子著」の本は書店に注文し手に入った

香川宜子(かがわよしこ)徳島県生まれ 内科医師、小説家

「シュネラー」という医学雑誌に4年間連載された一部改編し一冊にまとめたもの

まえがき「聖書には、最後には神の栄光さえ知らない「東の日出る島の人たちが地球を護るために歌を携え神の栄光を伝えにやってくる」というくだりがある

「イースター(Easter)」は「東の国の人」

「東の国の人」が復活をもたらせる」と書いている

ここからはまったく私の空想、オカルトの世界です

日本の伝説「イザナキ、イザナミ」はユダヤ人であったという説

イスラエルの歴史を調べればヒントがある

アッシリア捕囚(北イスラエルユダヤの10種族)はC(約)740BC~538BC

このころに「アーク」を持ち出し、あしの船で旧約聖書にある「日出る国(日本)」に向かったという説

淡路島で10種族の一つ「ナフタリ族」の紋章(鹿)のついた指輪が発見されている

陸路で移動する種族と海を渡る種族とに分かれたという

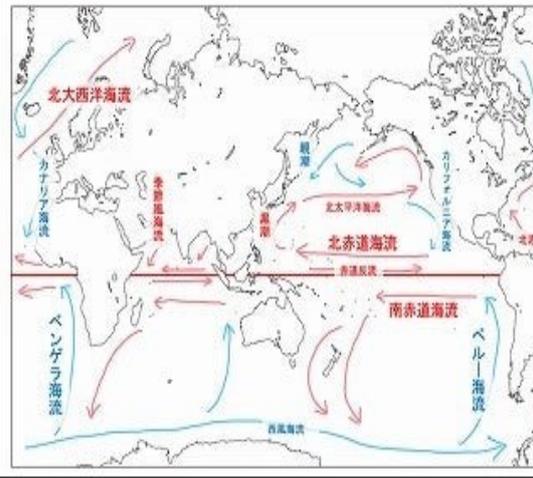
イスラエルの歴史

この記事はシリーズの一部です。

古代

イスラエル(民族)	
カナン移住	
出エジプト	c.1280 BC
ユダヤ教成立	
士師の時代	
イスラエル王国	c.1020 BC-722 BC
ユダ王国	c.930 BC-586 BC
アッシリア捕囚	c.740 BC-538 BC
アッシリア	722 BC-612 BC
バビロン捕囚	586 BC-538 BC
新バビロニア	586 BC-536 BC
アケメネス朝	536 BC-333 BC
アレクサンドロス大王	333 BC-323 BC
プトレマイオス朝	323 BC-198 BC
セレウコス朝	198 BC-c.140 BC
マカバイ戦争	167 BC
ハスモン朝	c.140 BC-37 BC
ヘロデ朝	37 BC-92
ユダヤ属州	1C BC-135
ユダヤ戦争	66-73
キトス戦争	115-117
バル・コクバの乱	132-135
パレスチナ	135-390
ディアスポラ	

kairyu.png...
r-geography.com



あしの船で「赤道反流」と「黒潮」に乗れば1年半ほどで日本に着くという

現在の黒潮の流れ

四国で大きく蛇行している

梶を左に切れれば丁度淡路島あたりに漂着する

14:00 4G+ 81%

安倍首相... news-vision.jp

2018-5-9 13:00

EDITOR'S VISION

送る



Instagram: @segevmosheより

以上私の空想の世界でした

今度ここに行ってこようと思う

伊弉諾神宮（いざなぎじんぐう）は、兵庫県淡路市多賀にある神社。式内社（名神大社）、淡路国一宮。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。

伊弉諾神宮



拝殿

この図が面白い

淡路島が中心になっている 直線上に「藤原京」「伊勢神宮」「海神社」

夏至には「信州諏訪大社」から日が登り「出雲大社」に陽が沈む

冬至には「熊野那智大社」から日が登り「高千穂神社 天岩戸神社」に日が沈む

これらは偶然ではなく意図的に造られたものように思う



不思議ですね

淡路島、徳島に行って調べてみないと分からない

4月に訪問する予定だ

またレポートします